

京都府漁海況情報

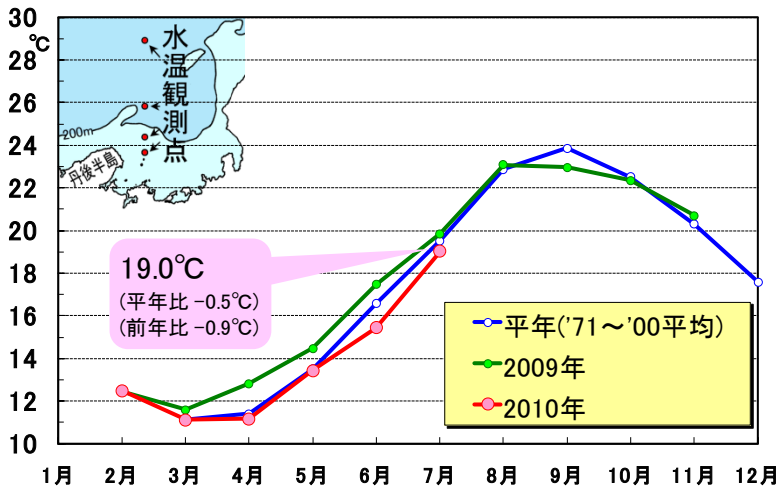
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

海の状況

【現況】

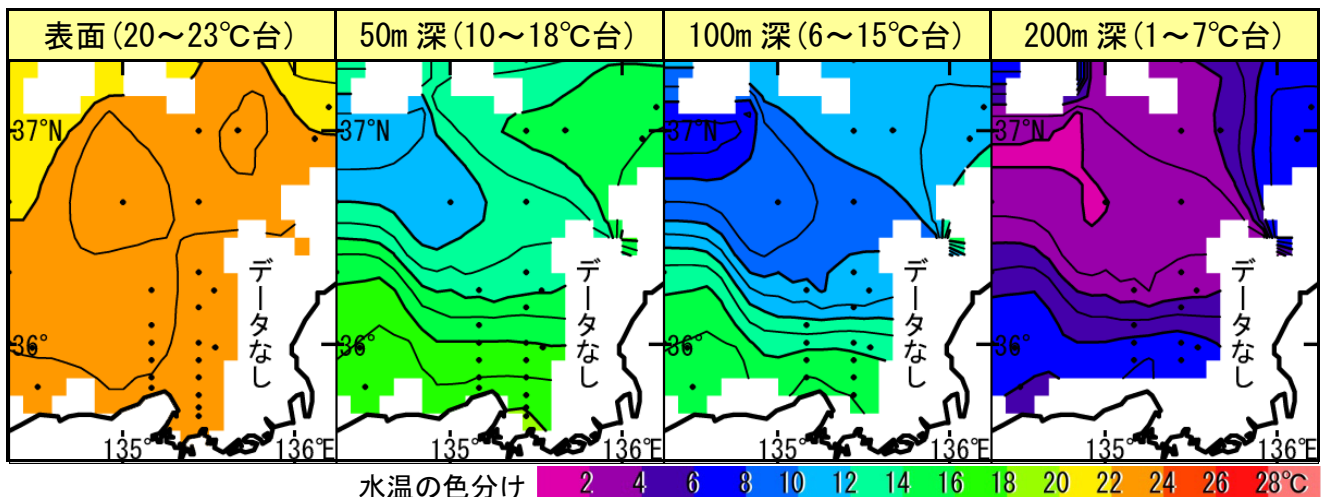
7月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年よりやや低めで推移していました。また、沖合からの冷水域は張り出し気味でした。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2010年7月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元：(独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し※	「平年より強め」で推移する見込み

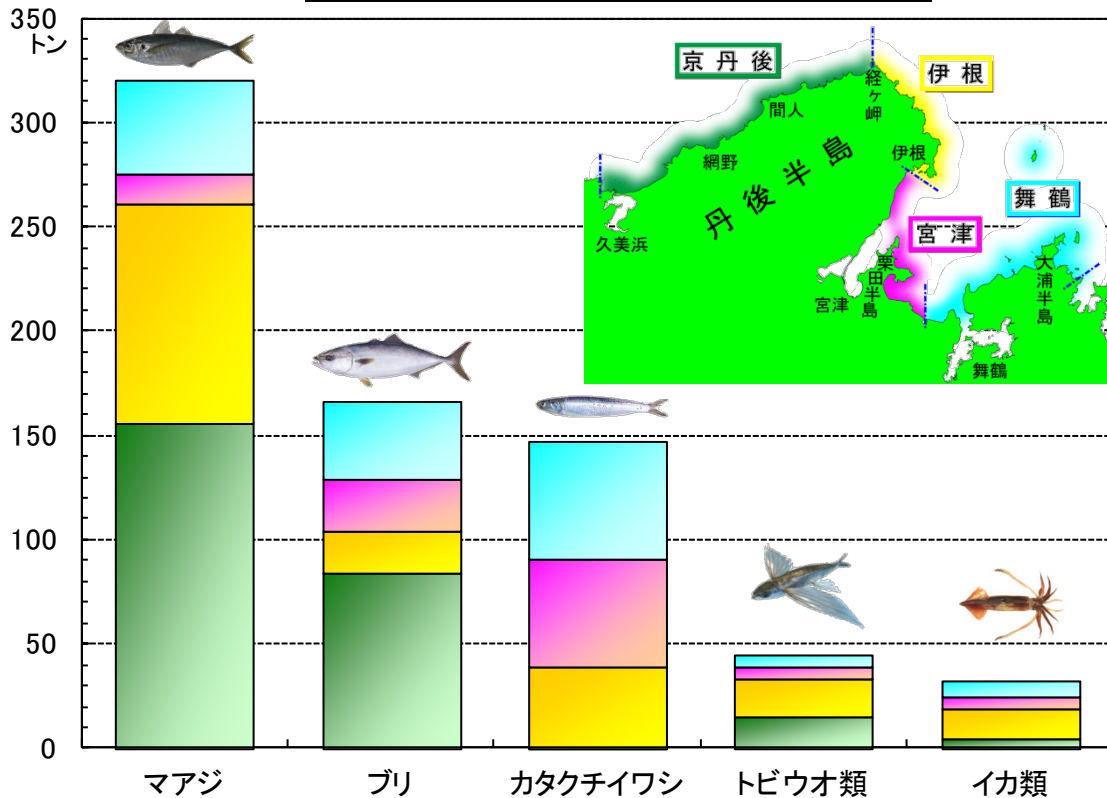
※冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

漁模様 ～2010年6月～

【定置網漁業】

ブリは比較的好漁でしたが、全体では平年および前年の6月と比べて7割程の水揚げにとどまりました。

2010年6月の地域別漁獲量(上位5魚種)

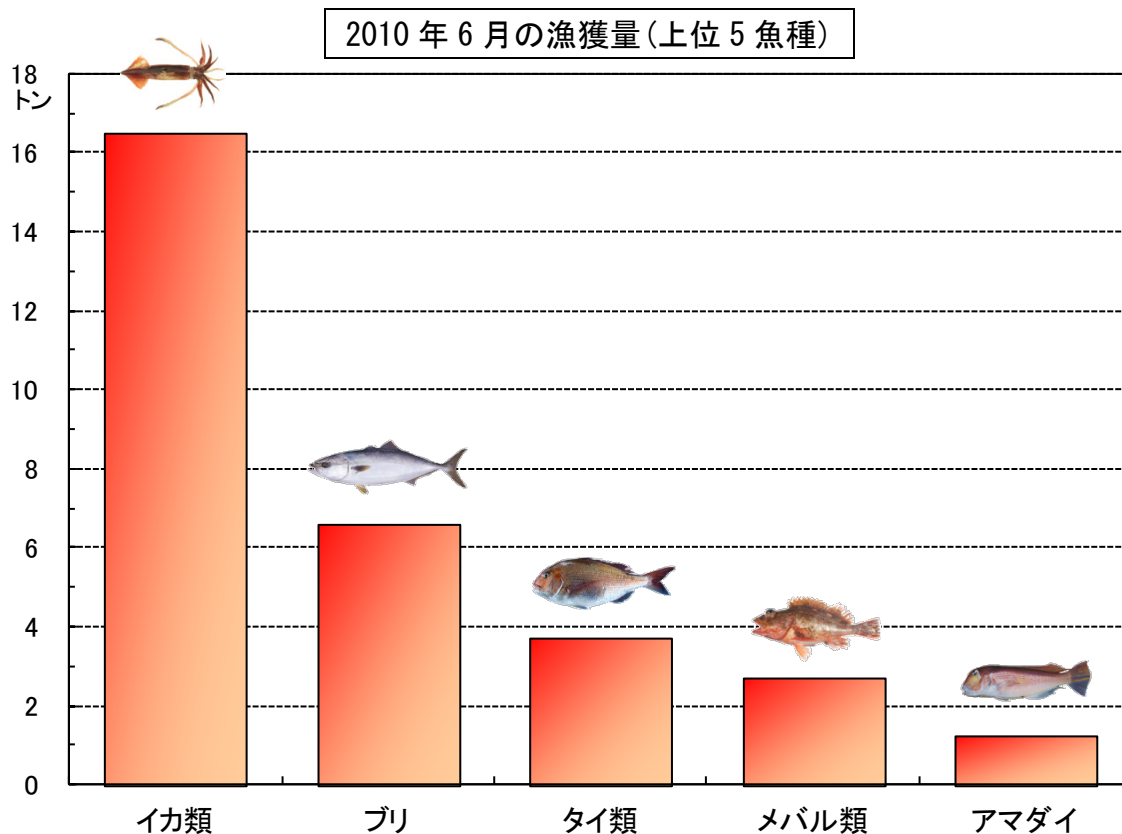


6月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)		備考
マアジ	320.2	568.8 (56%)	469.3	(68%)	<ブリ> つばす銘柄(尾さ長 34～42cm 台主体)が9割弱、ぶり銘柄が1割弱、はまち銘柄とまるご銘柄が若干量でした。
ブリ	166.8	30.2 (553%)	53.2	(314%)	
カタクチイワシ <small>(たれ)</small>	146.9	239.6 (61%)	374.1	(39%)	
トビウオ類	44.8	78.3 (57%)	82.8	(54%)	
イカ類	32.5	18.7 (174%)	45.2	(72%)	
サワラ	24.4	56.5 (43%)	33.3	(73%)	<カタクチイワシ> 体長 4～10cm 台で、主体は 6～9cm 台でした。
サバ類	19.5	8.1 (239%)	24.5	(80%)	<イカ類>
スズキ	17.4	12.2 (143%)	7.5	(232%)	ケンサキイカ(白いか)が 22.7トン、スルメイカが 9.2トン、アオリイカ(秋いか)が 0.3トンなどでした。
カマス類	12.2	19.4 (63%)	14.5	(84%)	
タイ類	5.7	3.1 (185%)	5.4	(105%)	
その他	38.2	53.3 (72%)	77.4	(49%)	
合計	828.7	1088.1 (76%)	1187.2	(70%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

全体では前年の6月をやや上回り、平年比で8割強の水揚げでした。



6月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考	
イカ類	16.5	13.5 (123%)	18.8 (88%)	<イカ類> スルメイカが16.1トン、ケンサキイカ(白いか)が0.4トンでした。 <ブリ> まるご銘柄が6割強、ぶり銘柄が約2割、はまち銘柄が1割強、つばす銘柄が若干量でした。	
ブリ	6.6	3.8 (175%)	2.8 (236%)		
タイ類	3.7	2.5 (153%)	3.7 (102%)		
メバル類(もいお)	2.7	2.8 (97%)	2.5 (110%)		
アマダイ(ぐじ)	1.3	1.9 (66%)	2.3 (55%)		
アジ類	0.7	1.3 (55%)	1.6 (46%)		
スズキ	0.2	0.4 (41%)	0.8 (21%)		
タチウオ	0.1	0.2 -	2.6 -		
サワラ	0.1	3.4 -	2.2 -		
メジナ(つかや)	0.1	0.0 -	0.0 -		
その他	4.5	4.9 (92%)	6.2 (73%)		
合計	36.7	34.6 (106%)	43.4 (84%)		

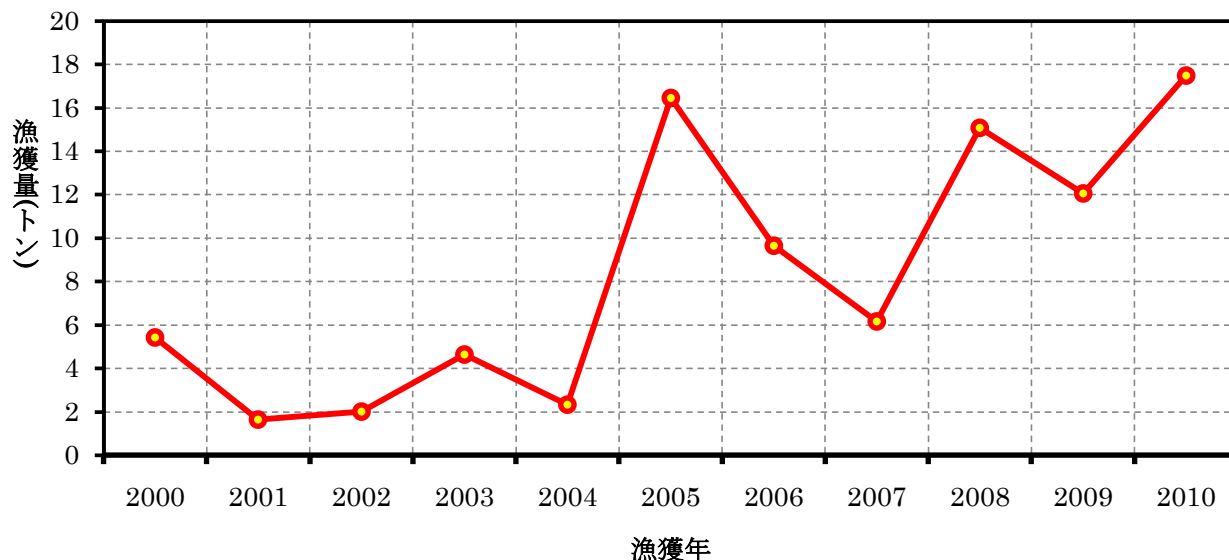
平年は過去10年平均

【底曳網漁業】

資源保護のため、6月1日から8月31日まで休漁です。

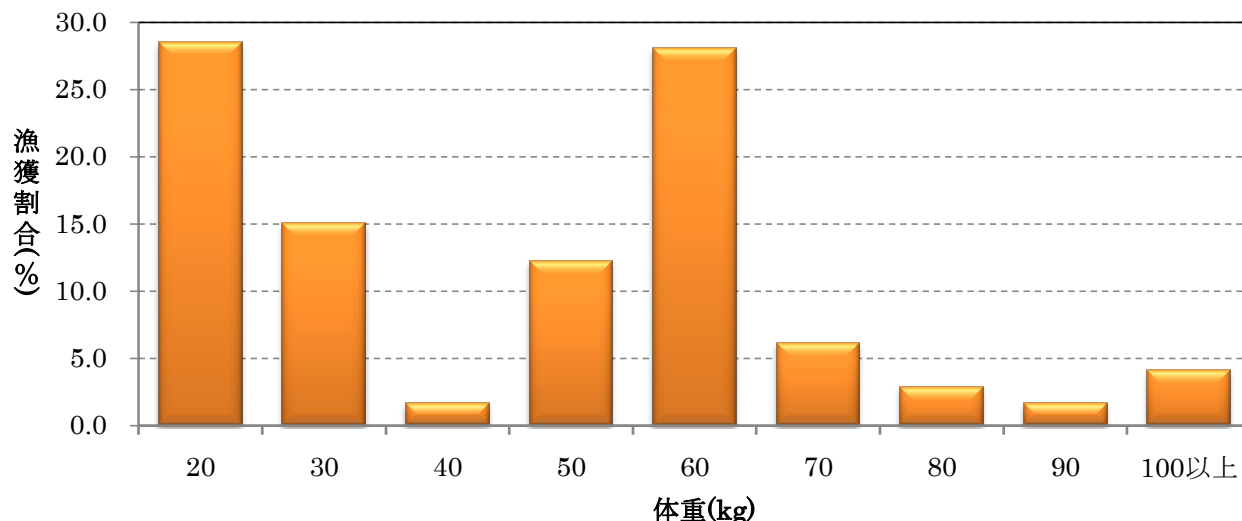
【トピック1 ～クロマグロの漁況～】

丹後の海では、若魚(しびご, よこわ)から体重数十kg以上の大物(しび)まで様々な成長段階のクロマグロが定置網に入ります。そのうち、市場価値の高いしびは5月から7月上旬頃が盛漁期です。



近年の盛漁期(5月+6月)におけるしび漁獲量(京都府漁連まとめ)。

今シーズンのしびの漁模様は、近年の中では好調に推移しています(折れ線グラフ)。漁獲の主体は体重20~30kg級および50~60kg級で、体重100kg超級は全体の5%弱でした(棒グラフ)。



今年5月下旬から6月下旬までに漁獲されたしびの体重組成(計246尾, 京都府漁連まとめ)。ただし、多くは内臓や鰓を除去された状態での体重です。

余談ですが、舞鶴の魚市場に今季入荷した最大級のしびは、6月17日に福井県世久見の定置網で獲れた体重約320kgでした。

【トピック 2 ～サケガシラの幼魚～】

6月下旬以降，府内の所々の定置網にサケガシラ属の幼魚が入っています。福井県の砂浜でも体長約 65mm の幼魚が漂着しました(6月27日付朝日新聞)。

一般には深海性とされるサケガシラ属の成魚が，昨年末から今年3月にかけて各地の定置網にまとまって入網したことは，各浜の漁業者さんの記憶に新しいことと思われます。



6月30日に舞鶴市丹生の定置網漁業者さんが採集されたサケガシラ属の幼魚(体長125mm)。標本写真は，京都大学舞鶴実験所の甲斐嘉晃先生からご提供頂きました。

今冬に成魚の来遊が多かったことと，沿岸域にちらほらと幼魚が出現していることとの関連の有無が注目されます。

【トピック 3 ～ウチワカンテンカメガイの大量出現～】

このところ，府内各地の定置網にクラゲやサルパとは姿形の異なる指サック状の物体がたくさん入り，漁獲物の選別に手間取ることがあるようです。

この正体は，黒潮域に多く分布するとされるウチワカンテンカメガイで，流氷の天使といわれるクリオネに近い仲間です。クリオネと同じく翼のような足を持ち，それを羽ばたかせて遊泳します。



ウチワカンテンカメガイの殻(専門用語で擬殻といいます)。長さ3cm前後のだ円形で，無色透明の表面にはイボ状突起があります。クラゲのような刺胞毒はありません。

ちなみに，体は寒天質の殻に納まっていますが，衝撃で容易に脱け落ちてしまいます。そのため，定置操業時に漁業者さんがよく目にされているのは，写真のような殻だけかもしれません。